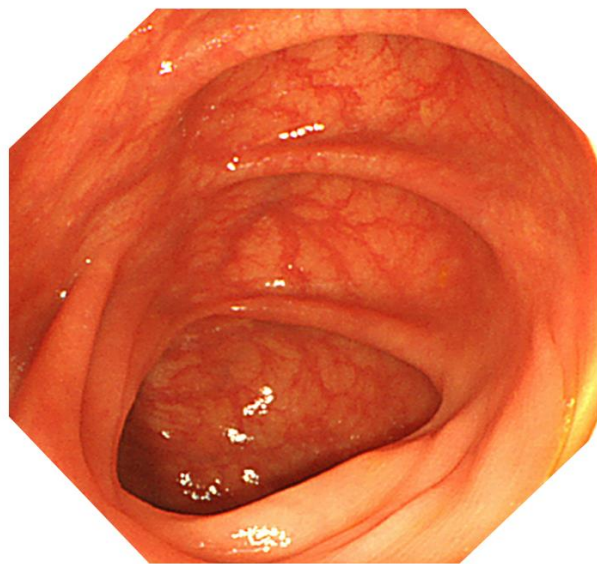
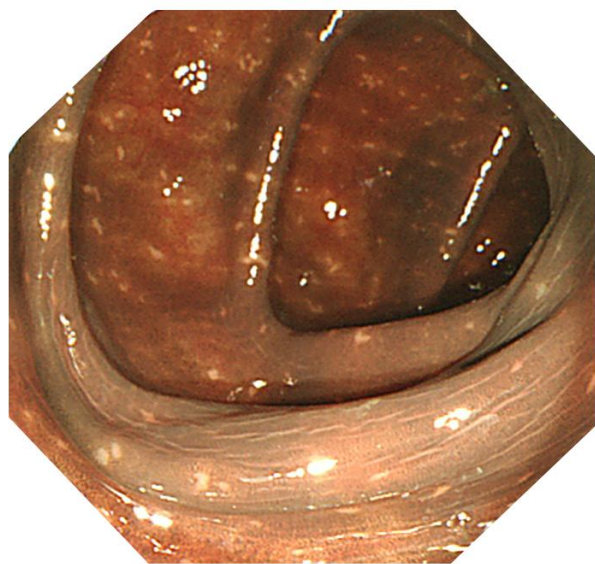


大腸メラノーシス

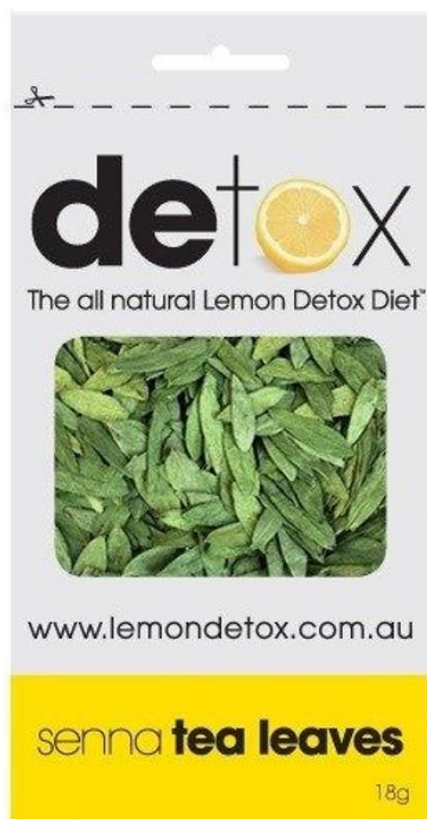
大腸メラノーシスとは、センナ、大黄(だ
いおう)、アロエ等の大腸刺激性下剤(ア
ントラキニン系)を長期にわたって飲み続
けた結果、大腸の粘膜に色素が沈着し、黒
っぽくなった状態です。



写真左：大腸メラノーシス

写真右：健全な大腸の色調

医薬品では、**ヨーデル**、**アローゼン**、**プルゼニド**、**センノサイド**、**大黃甘草湯**、**麻子仁丸**などに多く含まれています。また、市販の下剤はもちろん、健康食品、ダイエット食品のなかにも含まれていることがあります。



大腸メラノーシスの状態になれば、単に色素が沈着するだけでなく、大腸の筋層の神経細胞が減少するため、腸の動きが鈍くなり、便秘の症状が悪化していきます。そして、下剤がききにくくなります。



大腸メラノーシスと大腸ポリープ、大腸腺腫、大腸癌との関係は未だに不明ですが、やはり気をつけておくに越したことはありません。



大腸がん

以上より、**大腸刺激性下剤（アントラキニン系）**は長期に使用すべきでなく、塩類下剤に切り替えることが望ましいと考えます。



👉 便秘に関しては「Q&A 便秘外来」も
ご覧ください

当クリニックでは、便秘の原因を特定し、排便を整えるためのさまざまなアプローチを実践しております。

ぜひ一度、ご相談ください。



補 足

大腸メラノーシスにおいて沈着している色素はメラニンではなくリポフスチンであり、リソソームによって細胞内消化された異物の残余物質であるリポフスチンがマクロファージに取り込まれることで粘膜の黒色変化をきたすと考えられています。